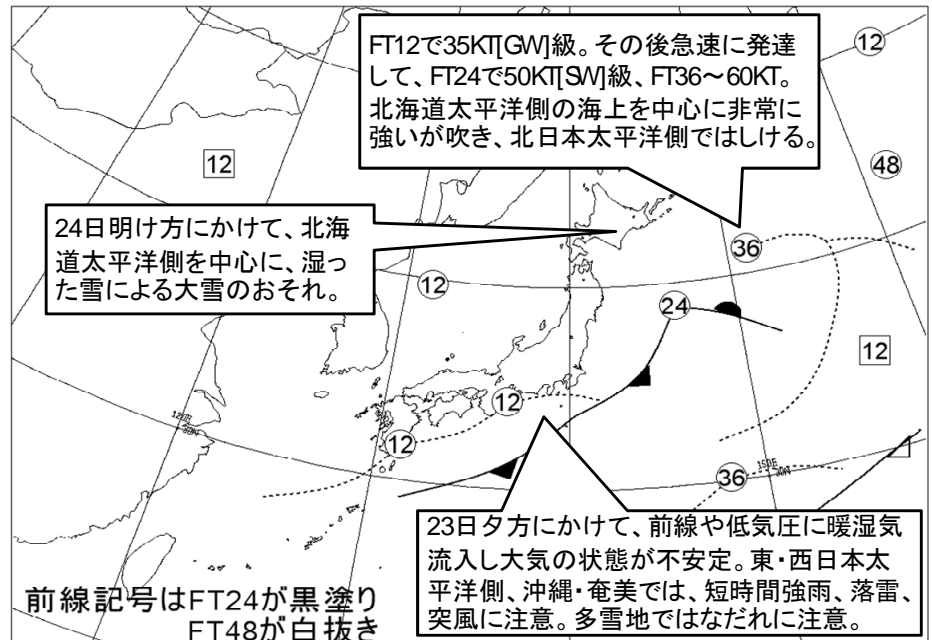


1. 実況上の着目点

- ①前線が東日本太平洋沿岸から華中にかけてのび、前線上の東シナ海には低気圧があって東進。東・西日本には広くエコーが広がり、東シナ海には発達したエコーがあって、南西諸島付近で活発な発雷を検知。
- ②長江河口付近に、東シナ海の低気圧に対応する500hPa5640m付近のトラフがあって東進。華北には5340~5400m付近のトラフがあって、深まりながら東進している。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ①東シナ海の低気圧は、23日朝には九州南部付近まで東進するが、その後トラフとの対応が悪くなり不明瞭。代わって、23日朝紀伊半島付近の前線上に発生した低気圧が、5340~5400m付近トラフの東進に伴い、関東の東海上を急速に発達しながら北東進する。23日12UTCで50KT[SW]級、24日00UTCで60KTまで発達する。北海道では太平洋側の海上を中心に非常に強い風の吹く所があり、北・東日本太平洋側ではしける。強風(風雪)、高波に注意。
- ②23日夕方にかけて、低気圧や前線に向かって南から暖湿気(850hPa相当温位318K、風速約50KT)が流入し、大気の状態が不安定となり、西・東日本の太平洋側と沖縄・奄美では、雷を伴った1時間30~40mm、局地的には50mmを超える短時間強雨、落雷、突風に注意。また、23日昼には850hPa0°C線が東北北部まで北上するため、標高の高い所を除き雨となり、多雪地ではなだれや融雪に注意。気温の比較的低い北海道では湿った雪となり、24日明け方にかけて太平洋側を中心に大雪や着雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

- ①最新のGSMを基本。地形性降水などはMSM参考。②波浪：モデル基本。風の予想に合わせ修正。

4. 防災関連事項[量的予報と根拠]

- ①大雨・大雪ポテンシャル(06時から24時間：地点最大) 雨：西・東日本太平洋側、沖縄100mm前後。2項の短時間強雨に留意。雪：北海道太平洋側50cm。
- ②波(明日まで)：北日本太平洋側、伊豆諸島4m。その他2.5~3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はありません。